

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月10日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530606

研究課題名（和文）保育教育困難幼児に対する認知特性を生かした保育支援

研究課題名（英文） Child Care Support Focusing on Cognitive Profiles for the Children with Special Educational Needs

研究代表者

秦野 悦子 (HATANO ETSUKO)

白百合女子大学・文学部・教授

研究者番号：50114921

研究成果の概要（和文）：

保育所または幼稚園など幼児集団に通う子どものうち満3歳以上で、明らかな知的障害を伴わないが、行動面・社会面の問題により保育者が保育困難さをもつ子どもを対象に、①認知特性、特に認知処理過程のアンバランス、プランニング、注意などを査定する心理学的バッテリーを実施し、その行動指標を明らかにした。②日常保育活動のうち、保育参加という視点からとらえた知的遅れのない保育困難幼児の特徴を明らかにした。③特別ニーズ保育児の小学校への送りに関する調査結果から保育臨床支援における連携について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This study examines how nursery school teachers should contact specialists and cooperate with specialized institution in order to support the children with special educational needs. At first, the result of the factor analysis yielded 5 factors, and 25 items were selected for the measurement and evaluation. A case analysis shows that it is important for the children with special educational needs to focus their cognitive profile.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			0
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：社会科学・心理学・教育心理学

キーワード：保育教育困難児、認知特性、認知のアンバランス、発達アセスメント、教育系心理学

1. 研究開始当初の背景

いわゆる発達障害児といわれる子ども達は、1歳6か月児健診、3歳児健診などの乳幼児健診で把握されたとしても、問題点が見極められないで経過観察の対象となり、保育教育現場で子ども理解に戸惑っ

たり混乱したりして一貫した保育教育体制がとりにくい現状がある（秦野2003, 2004, 2005, 2006）。また保育集団においては、適切な対応されることなくそのままに放置されると、継続的な子どもの発達支援や育児支援にいたらず、幼児期後期の保

入学する学校の選択状況 特別ニーズ保育児とされた239名のうち76.6%が普通級を選択した。また、特別ニーズ保育児の10%が、学区外の就学先を選択していた。

1 年次在籍学級 特別ニーズ保育児73.2%が通常学級で過ごし、そのうちの16.4%は診断名のある子どもであった。

就学後に必要とされる支援 保育者が小学校に申送った就学後に必要とされる支援は、行動面43.2%、教科学習37%、家庭環境18.9%で、一人の子どもに対して必要な支援が単一でなく相互に絡み合う場合もある。また、直面する支援課題が、行動面や生活面に焦点化された場合は、教科学習面での支援が必要という段階まで至らない傾向が示された。

入学して1年後の様子 小1の3月に実施した1年後の追跡調査において、52名分の子どもの現状について自由記述回答を得た。適応しているという記述が20あった一方で、適応の問題があるという記述が14あった。適応の問題としては、行動面、理解、家庭環境があげられ、保育者が申送った内容と一致していた。申送った対応がなされていることで適応できている様子や、行動面の問題のため、個別対応が必要になっている子どもの様子も記され、支援の連続性が指摘された。

申送りが生かされたか 保育者は子どもの現状をきめ細かく多岐にわたり申送っているが、その申送りが就学後の子どもの支援に生かされるためにも、口頭での申送り、就学後の懇談 といった相互的な情報交換及び関係構築を望んでいる。良い連携事例をモデルケースとしながら、相互的連携構築のためのシステムの構築が待たれる。

(3) 特別ニーズ保育児の認知特性と保育支援

2008年度から毎年の調査で関わった事例で参加協力の得られた39事例を保育臨床相談の継続的な支援を行い、園や学校へのコンサルテーションを実施した。

認知特性を明らかにする上で新版K式発達検査、K-ABC心理教育アセスメント、WISCⅢ、DNCASなどを併用した。認知特性を明らかにすることで、それに対応した保育のあり方を模索した。特に検査課題で把握すべき行動特性として表5に示すように「状況の読み取り」「注意の集中・持続」「対人反応」「巧緻性」が抽出された。今後、特別ニーズ保育児をとらえる行動指標として精査していくことが課題となった。

表5 課題場面の行動指標

状況の読み取り	1	騒音することがある
	2	検査用具を覗き込む
	3	検査用具が気になる、触る、立つ
注意の集中・持続	4	机をガタガタさせたり、イスからずり落ちたり姿勢がみらつく
	5	まわりにあるもの(聲や顔)を触る
	6	無計画に照会的に取りかかる
	7	途中から集中が切れる
起用・対人	8	触れようだとすぐに「わからない」とあきらめる
	9	触ますと気を取り戻してやり直す
	10	終了指示を待たずに反応する
	11	丁寧過ぎる言葉、大人びた口調、嬉しい言い回しをする
	12	乱暴な言葉遣いがみられる
	13	触したとするとストップするのに苦労する。
	14	動作課題で考えていることを口に出しながら取り進む
巧緻性	15	動作課題操作に時間がかかる

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

- ① 秦野悦子、木原久美子、実践交流型研修における保育支援の力量形成、臨床発達心理実践研究、査読有、6巻、68-756、
- ② 秦野悦子、幼児教育から小学校教育における就学支援、子育て研究、第1巻、10-17、
- ③ 秦野悦子、地域子育て支援におけるニーズ把握と活用、生涯発達心理学研究2巻、2010、10-17、
- ④ 秦野悦子、倉盛美穂子、三宅幹子、山崎晃、保育支援の実態とニーズ：保育所・幼稚園と関連機関との連携のあり方、臨床発達心理士実践研究、査読有、4巻、2009、67-77、
- ⑤ 秦野悦子、保育巡回相談で出会う倫理問題とその対応、白百合女子大学研究紀要、44巻、2009、151-174
- ⑥ 秦野悦子、平沼晶子、服部幸也香、金井真理子、宮谷香里、野村直子、子どもの発達を支援する心理職の実践知 白百合女子大学発達臨床センター11巻 2008、18-28
- ⑦ 秦野悦子、乳幼児健康診査とその後の支援体制：横浜市を中心に、白百合女子大学研究紀要、44巻、2008、147-168、

〔学会発表〕(計37件)

- ① 秦野悦子、小西紀一、竹谷志保子、感覚統合の視点から見た子どもの発達と保育・教育現場での臨床、日本臨床発達心理学会第7回全国大会論文集、2011、52-53、
- ② 秦野悦子、瀬戸淳子、野村直子、大澤絢乃、鈴木普子、隠村美子、特別ニーズ保育児の小学校への送り後の追跡調査(1)~(4)、日本発達心理学会第22回大会論文集、2011、180~183、
- ③ 秦野悦子、瀬戸淳子、大澤絢乃、鈴木普子、野村直子、隠村美子、特別ニーズ保育児の小学校への送り(1)~(2)、日本特殊教育学会第48回大会発表論文集、2010、306~307、
- ④ 秦野悦子、瀬戸淳子、アスペルガー幼児の人とのかかわりを豊かにする支援、日本保育学会第63回大会発表要旨集、2010、431、
- ⑤ 秦野悦子、瀬戸淳子、野村直子、大澤絢乃、鈴木普子、隠村美子、首都圏227保育所における特別ニーズ保育児の出現数、日本発達心理学会第21回大会論文集、2010、288、
- ⑥ 秦野悦子、三宅篤子、服巻智子、軽度発達障害児者へのコミュニケーション支援、日本発達心理学会第21回大会論文集、2010、

- ⑦ 秦野悦子、瀬戸淳子、隠村美子、2009年10月31日 共同 政令指定都市K市公立保育所における保小連携の実態(1)~(2)、第56回日本小児保健学会講演集、2009、
- ⑧ 秦野悦子、瀬戸淳子、アスペルガー幼児の3年間の保育の中での育ちと支援、日本特殊教育学会第47回大会発表論文集、2009、
- ⑨ 秦野悦子、瀬戸淳子、野村直子、大澤絢乃、鈴木普子、隠村美子、保育者がとらえた知的遅れのない保育困難幼児の特徴(1)~(3)、日本発達心理学会第20回大会発表論文集、2009 318-320、
- ⑩ 秦野悦子、瀬戸淳子、アスペルガー幼児の認知特性と保育支援：K-ABCおよびWISC-IIIと保育での姿(1)~(2)、日本特殊教育学会第46回大会発表論文集、2008、474-745、

〔図書〕(計7件)

- ① 秦野悦子(編著)、地域における保育臨床相談のあり方、2011、ミネルヴァ書房、
- ② 秦野悦子(編著)、保育の中での臨床発達心理学的支援、2011、ミネルヴァ書房、
- ③ 秦野悦子(編著)、保育学研究倫理ガイドブック、2010、フレーベル館、
- ④ 秦野悦子(編著)、生きたことばの力とコミュニケーションの回復、2010、金子書房、
- ⑤ 秦野悦子、一次的ことばの発達と共同注意、発達121巻、ミネルヴァ書房、50-57、
- ⑥ 秦野悦子、平糠友紀、アスペルガー幼児の保育所3年間の個と集団の育ち、発達116巻、2008、ミネルヴァ書房、57-63、

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秦野悦子 (HATANO ETSUKO)
白百合女子大学・文学部・教授
研究者番号：50114921

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

瀬戸敦子 (SETO JUNKO)
帝京平成大学・健康メ^{ディ}カル学部・准教授
研究者番号：70438985

(4) 研究協力者

- ・野村直子 (NOMUERA NAOKO)
調布市子ども発達センター・言語聴覚士
- ・大澤絢乃 (OHSAWA AYANO)
川崎市子ども局・発達相談員
- ・鈴木普子 (SUZUKI HIROKO)
川崎市こども局・発達相談員
- ・隠村美子 (ONOMURA YUSHIKO)
川崎市教育委員会・巡回相談員